

黒岩祐治

明日を語るふ

1999 12/22 ~

心

目次

[30]人の心は二つある。	3
[40]もう一人の私の発見	4
[42] 若い人の理解できない理由からの反社会的行動 ..	5

[30]人の心は二つある。

投稿者：赤沼侃史

投稿日：99年12月22日<水>09時59分

先日春奈ちゃん殺人事件の犯人が起訴されました。そのことはスーパーニュースでも取り上げられました。けれど警察の言うその動機は殺人を犯すには不十分です。母親同士のつきあいの中でいくら嫌なことがあったとしても、子供を持つ平均的な母親の殺人の動機にはなりません。自分の子供が大切なら、自分の家族が大切なら、とても殺人などできるものではありません。まして、犯人は看護婦だった人です。学生時代にも、看護婦になっても、命を助けることを徹底的にも、体の動きでも教えられていた人です。人間の心からでは絶対に殺人はできないと思います。

しかし殺人は事実です。それ故に犯人は殺人を犯すような心を人の心とは別に持っていたこととなります。それは当人の知らないところにある心 = 潜在意識のころ = 情動の心 = 動物の心です。傷ついた情動のころがあると考えない限り説明の付かない事件です。

京都で小学二年生の子供が校庭で殺されました。きっとこれも未成年者の傷ついた情動の心がしたものだとは私は推測しています。神戸の連続通り魔事件の犯人の少年が書いた「懲役13年」を読むと、この少年が自分の心の中に住む悪魔、それは潜在意識の中にあるので、はっきりと分からなくて、それでいてその存在に気づいている、少年の悩み続けている思いがはっきりと出ています。

このような分析は今の心理学、精神分析学では認めようとしません。しかし脳科学的にははっきりとその存在が認められており、その事実に沿った見方、分析を行わない限り、これらの人たちの行動を理解できないし、今後このような不幸が起きることを防ぐこともできません。

今一度心の構造を説明します。人には思考や認識をする心があります。それは言葉でも意識的にも表現できます。それは教育や文化で作りに上げられたモノです。もう一つの心は潜在意識の中にあります。誰もその存在やその中身を知ることはできない心です。それが素直に働けば動物としても、人間としても、好ましい生活、時には天才的な結果を生み出します。しかしそれが傷つくと、それはその人を破滅し、場合によっては人を傷つけます。それでいてとうに人も周囲の人も、なぜそのような行動をとったのか知ることができないのは、その情動の心が好ましく働いて、天才的な仕事をなしえた理由が分からないのと同じです。ただ、大人では自分の感情として、その情動の心の一部を知り得ることができます。

[40]もう一人の私の発見

投稿者：赤沼侃史

投稿日：100年1月4日<火>15時38分

ある女性からの手紙です。

中学生になったとき、**私の中にもう一人の私**がいることを発見しました。何かを頭の中で考えたときにもう一人の私が答えることがある。後にこの声のことをニューエイジ風に言うと**ハイアセルフ**、本当の私自身、と言われていることを知りました。ニューエイジの本を読み始めたとき、瞑想で心にすんでいる神と対話する事を知りました。

静観して心の内をみつめ、そして自分自身と対話する、何も答えが帰ってこないことがあるかもしれません。理性を失うより、理性を取り戻すためにも瞑想ってひつようなのかもしれませんが。

春菜ちゃん事件や**小学生殺人事件**をみると、人間って怒りを外に向けと、うちに向ける人にとにわかれるな、と思いました。私は怒りをうちにためるタイプだからパニック障害になったと確信します。感情をためず、外に出せたらこんなに苦しんでいないでしょう。ただ、その攻撃性も制限があります。どんなに怒りがひどくとも殺人性が失われています。どうして理性がきかないのか私には不思議でりせん。私だったらやっぱり、怒りが内に向かって体調を崩すでしょう。私には人は殺せません。殺す前に、自分がこわれてしまうでしょう。

ここで言う**もう一人の私**を、脳科学は言っています。そのもう一人の私は元来意識に上る私ではありません。意識に上る私は認識し、考え、思い出す私、いわゆる自分です。それは脳の前頭葉にあります。それ以外に、もう一人の私があります。それは潜在意識の中にあり、外からの刺激に反射的に反応する、命に直結した、性格に直結した、もう一人の私です。それは直接的には認識できません。そのもう一人の私が私の体の中に表現したものを私を感じ取って知ることができるだけです。これを情動と言い、大脳辺縁系の扁桃体で生じます。このもう一人の私の存在に気づかないと、人間の行動を理解することができません。 赤沼

[42] 若い人の理解できない理由からの反社会的行動

投稿者：赤沼侃史

投稿日：100年1月13日<木>19時48分

今日13日のスーパーニュースで、今回のJCBやJRの爆弾事件や池袋の通り魔事件など、若い人の理解のできない犯罪行動が取り上げられました。精神科医が事件を解説していましたが、事件の本質とはかけ離れていたと思います。

これらの事件の本質は人間の潜在意識にあるもう一つの心、情動が傷ついたための行動であることを言う人は一人もいません。とても残念なことです。元来情動は危険から個体を守るためのものでした。

ところが傷ついた情動は個体を守るために安全な場所を求めます。その安全な場所が地球上にないときには、想像の世界の中に安全な場所を作ります。その想像の世界では、その情動に都合がよいようにすべてが構成されます。その想像の世界では自分は絶対の人になっています。その想像の世界が強く作られて、現実と想像の世界の境界が分からなくなったときの、人の行動がこれらの事件を起こすと考えられます。ただ、情動が傷ついたときすべての人がこのような行動を取るわけではありません。かなりの方は精神症状を出す形をとります。また、ある人達は、このような自分の作った世界から犯罪行動に走ります。